



高等学校「歴史総合 近代から現代へ（歴総707）」

訂正箇所		原文	訂正文	訂正理由
ページ	行			
15	左 7～8	消費量は 1910（明治 43）年に約 <u>34</u> 万トンであったが、	消費量は 1910（明治 43）年に約 <u>33</u> 万トンであったが、	表記を統一（同ページのグラフ3「砂糖の生産と消費」における「植民地を含む日本全体の消費」の1910年の値〈33.0万トン〉とそろえる）
15	資料 6	（『新渡戸博士植民 <u>地</u> 政策講義及論文集』より）	削除	誤記
16	資料 10	ますますしんしょく 益々 <u>浸</u> 蝕せられ、	ますますしんしょく 益々 <u>侵</u> 蝕せられ、	誤記
20	資料 B	人たるものの必ずなくて <u>は</u> ならぬものでござろう。 …… その <u>悪</u> き所業あるものは之を罰し、	人たるものの必ずなくてならぬものでござろう。 …… その <u>悪</u> るき所業あるものは之を罰し、	適切な記載に
25	注 4	マラッカ王国が代表例。	<u>アユタヤ朝</u> やマラッカ王国が代表例。	よりわかりやすい表現に修正（本文中で、アユタヤ朝は典型的な港市国家であったとしているため、港市国家の代表例に追加）


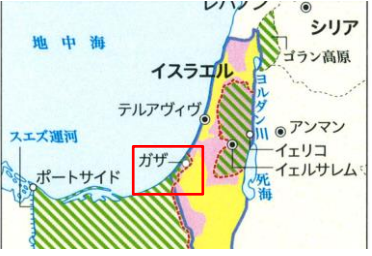
高等学校「歴史総合 近代から現代へ（歴総707）」

訂正箇所		原文	訂正文	訂正理由
ページ	行			
34	16～19 側注欄	その影響は <u>南北アメリカ大陸とアジア</u> では大きく異なっていた。現在のアメリカ合衆国・ <u>カナダ</u> 地域では、先住民の社会は人口が少なく、貿易の対象となる物品に乏しかったため、イギリスからの入植者はしばらく <u>自給自足型</u> の経済を営んでいた。	その影響は <u>地域によって</u> 大きく異なっていた。現在のアメリカ合衆国地域では、先住民の社会は人口が少なく、貿易の対象となる物品に乏しかったため、イギリスからの入植者はしばらく <u>自営農業中心</u> の経済を営んでいた⑨。 ⑨現在の <u>カナダ地域では、フランス人が漁業と先住民との毛皮交易をおこなった。</u>	よりわかりやすい表現に修正・注を追加（カナダ地域における毛皮交易について、注を追加し、本文もそれに合わせて変更）
37	図版 3	1840年の <u>紡績工場</u>	1840年代の <u>紡績工場</u>	より適切な記述に修正
40	12～14	1775年に <u>偶発的に</u> 戦闘が始まると、植民地側は翌76年に独立宣言 <u>図③</u> を發し、 <u>連合軍を組織してワシントン</u> を総司令官に任じた。	1775年に戦闘が始まると、植民地側は <u>連合軍を組織してワシントン</u> を総司令官に任じ、 <u>翌76年に独立宣言</u> を發した。	より厳密な表現に修正
54	26～27	アメリカ合衆国は世界 <u>最大</u> の農業国となった。	アメリカ合衆国は世界 <u>最大級</u> の農業国となった。	より厳密な表現に修正
58	21～22	1874年には劉永福が組織した <u>黒旗軍</u> がフランスに抵抗したため、	1873年には劉永福が組織した <u>黒旗軍</u> がフランスに抵抗したため、	より厳密な表現に修正
78	17	大院君を捕えて	大院君を捕らえて	より一般的な送り仮名に修正

高等学校「歴史総合 近代から現代へ（歴総707）」

訂正箇所		原文	訂正文	訂正理由
ページ	行			
105	16～19	1912年、 <u>ロシアは</u> セルビアやブルガリアなどのバルカン諸国に働きかけ、 <u>反オーストリアのバルカン同盟</u> をつくり、オスマン帝国と戦って <u>勝利</u> した（第1次バルカン戦争）。 <u>しかし翌年</u> 、 <u>獲得した領土の分配</u> をめぐる同盟諸国間での戦争（第2次バルカン戦争）が生じると、	1912年、セルビアやブルガリアなどのバルカン諸国は、 <u>ロシアの働きかけで反オーストリアのバルカン同盟</u> をつくり、オスマン帝国と戦って、 <u>翌13年勝利</u> した（第1次バルカン戦争）。 <u>同年</u> 、 <u>獲得した領土の分配</u> をめぐる同盟諸国間での戦争（第2次バルカン戦争）が生じると、	より厳密な表現に修正
137	地図			「ズデーテン」の文字の配置を変更
140	図版6	満洲国 <u>建国</u> のポスター	削除	より厳密な表現に修正
144	グラフ7	(1937年を100 <u>を</u> とする)	削除	誤記
157	11	ビルマは <u>アウン＝サン</u> ^{1915～47} の <u>指導のもと</u> 、1948年にイギリスから独立し、	ビルマは <u>独立を指導したアウン＝サン</u> ^{1915～47} の <u>暗殺後</u> 、1948年にイギリスから独立し、	より厳密な表現に修正

高等学校「歴史総合 近代から現代へ（歴総707）」

訂正箇所		原文	訂正文	訂正理由
ページ	行			
159	地図			変更が適切な記載（ガザ地区にも「第3次中東戦争でのイスラエルの占領地」の緑斜線模様を載せる）
161	20～21	<p>天皇の統帥権<small>とうすいけん</small>の廃止と議院内閣制<small>ぎいんないかくせい</small>を定めた憲法改正要綱<small>けんぽうかいせいようきょう</small>を GHQ に提出した。</p>	<p>天皇の統帥権<small>とうすいけん</small>の<u>独立</u>の廃止と議院内閣制<small>ぎいんないかくせい</small>を定めた憲法改正要綱<small>けんぽうかいせいようきょう</small>を GHQ に提出した。</p>	より厳密な表現に修正
168	資料 C	<p>私たちはマハトマも、他の指導者たちも信じる気になれません。</p>	<p>私たちはマハトマ^①も、他の指導者たちも信じる気になれません。</p> <p>① <u>「偉大な魂<small>たましい</small>」の意で、ガンディーの尊称。</u></p>	注を追加
172	資料 B	<p>(<i>Bulletin of the Atomic <u>S</u>cientists</i> vol.54 より作成)</p>	<p>(<i>Bulletin of the Atomic <u>S</u>cientists</i> vol.54 より作成)</p>	誤記
172	資料 B	<p>* イギリスの実験はすべてアメリカで実施。</p>	<p>* イギリスの<u>地下核</u>実験はすべてアメリカで実施。</p>	より厳密な表現に修正
174	地図 D (1846年)	<p>ペル<u>ビ</u>ニヤン</p>	<p>ペル<u>ビ</u>ニヤン</p>	誤記
192	資料 4	<p>きょうとう 極東<small>きょうとう</small>における</p>	<p>きょくとう 極東<small>きょくとう</small>における</p>	誤記

高等学校「歴史総合 近代から現代へ（歴総707）」

訂正箇所		原文	訂正文	訂正理由
ページ	行			
196	13～14	<u>大</u> 企業による膨大な設備投資	<u>民間</u> 企業による膨大な設備投資	より厳密な表現に修正
199	25	イタイイタイ病（富山県神通川流域）	イタイイタイ病（富山県神通川流域）	より一般的な表現に修正
199	33	公害規制条例の制定や老人医療の無料化など、福祉政策で	公害規制条例の制定や老人医療の無料化など、 <u>環境政策</u> や福祉政策で	より厳密な表現に修正
201	4～5	両者を直結する <u>電話</u> （ホットライン）	両者を直結する <u>通信回線</u> （ホットライン）	より厳密な表現に修正
207	17～18	第4次 <u>中東戦争</u> →p.188	第4次 <u>中東戦争</u> →p.189	より適当な参照ページに変更
211	7～8	賃金の上昇は <u>物価</u> 上昇率の枠内におさめられ	賃金の上昇は <u>生産性</u> 上昇率の枠内におさめられ	より厳密な表現に修正
221	30	1987年に <u>47</u> 年以降の戒厳令が解除 →p.157	1987年に <u>49</u> 年以降の戒厳令が解除 →p.157	より厳密な表現に修正
237	年表 (西アジア・ 南アジア・ アフリカ)	<u>1588</u> サファヴィー朝、イスファハーンに首都を定める	<u>1598</u> サファヴィー朝、イスファハーンに首都を定める	誤記